

活動と資料

第1回助産フォーラムからみえてきたこと —フリースタイル出産をテーマに—



古川 洋子¹⁾、嶋澤 恭子¹⁾、岩谷 澄香¹⁾
高橋 里玄²⁾、正木紀代子³⁾、山田 奈央³⁾

¹⁾滋賀県立大学人間看護学部

²⁾白鳳女子短期大学

³⁾前滋賀県立大学人間看護学部

キーワード 助産学、フリースタイル、出産、フォーラム 技術演習

I. はじめに

最近の出産事情をみると、人の命に直接関わることから倫理性や安全性、安楽性が強調されている中、相次ぐ産科病棟の閉鎖、産科医の減少が叫ばれ、産み場所を求め歩く妊婦を「お産難民」と称されるようになってきた。日本における女性たちの出産場所は、1960年代を境に家庭分娩から施設分娩へと移行していった。施設内出産が99%以上を占めるようになった現代であるが、そのなかで女性たちはいろんな出産のあり方を考えるようになった。もはや、「産ませてもらう」などの成り行き任せのお産は少なくなっているのではなからうか。最近では、アクティブバースをはじめ、フリースタイル出産など“お産多様化時代”を迎えたといっても過言ではない。今や女性は出産を選択できる幸福を感じ、同様に迷いや混乱も生じている現状がある。女性には、自分自身に子どもを産む方法を見つける能力が備わっているといわれている。その能力を引き出すために助産師は、女性に共感し寄り添い、ケアの質を上げていくことが要求されている。今回、より良い助産ケアを目指し、滋賀県立大学人間看護学部助産師選択課程の第1期生が卒業を迎えることを記念し、滋賀県立大学人間看護学部第1回助産フォーラムを開催した。

II. 助産師フォーラムの目的

より質の高い助産師教育の向上を目指し、助産に関する知識や技術を共有することを目的に滋賀県立大学人間看護学部第1回助産フォーラムを開催した。今回のフォーラムは、地域の助産師の参加のもと、アクティブバースの実践を演習に取り入れた演習を通して、アクティブバース、フリースタイル出産の技術演習をおこなった。第1回助産フォーラムの開催について報告する。

II. フォーラムの内容 (表1参照)

1. 日時・講師・参加者

平成19年3月21日、本学成育看護学実習室 (E4-101教室) にて第1回助産フォーラムを開催した。講師は、日本赤十字社医療センター分娩室助産師長の中根直子先生とアシスタント講師4名の計5名でおこなわれた。参加者は、滋賀県内の助産師や学生の84名の参加があった。

2. 講義内容

(1) 講義 (表1参照)

表1) フォーラムの目的と実施内容

テーマは「フリースタイル出産の現実化メモ」と題し、出産時のケアに焦点を当て、講師からの講義とした。分娩介助以前のケアについて、自由な体位で出産にいたるためには、遠慮なく自由に振舞うことのできる環境作りが基礎であること、そのときの助産師のあり方として、オープンマインドであること、人間の五感に関わる全ての環境を整えること、多角的な情報収集で正確にアセス

2007年9月26日受付、2008年1月30日受理

連絡先: 古川 洋子

滋賀県立大学人間看護学部

住 所: 彦根市八坂町2500

e-mail: furukawa@nurse.usp.ac.jp

| | |
|----------|---|
| フォーラムの目的 | 教育現場と地域や臨床で働く助産師が交流し、助産についての新しい知識や技術を共有する |
| テーマ | 「もっと自由な出産を ～フリースタイル分娩～」 |
| 今回の目標 | フリースタイル分娩の理解と実際について、出産の実技演習を通しての学びを深め、実践活用への方向付けができる |
| 講師 | 中根直子先生 日本赤十字社医療センター助産師長 アシスタント講師（助産師）4名 |
| 参加者 | 助産師・助産学生84名 |
| 日時 | 平成19年3月21日（水・春分の日） 13:30～16:00 |
| 場所 | 滋賀県立大学人間看護学部 看護棟 E4-101 |
| 講義内容 | 講義：フリースタイル出産について （約1時間） 分娩介助以前のケア、分娩介助の周辺、分娩に関するEBM 臨床でよく出会う問題、フリースタイルに関するVTR （側臥位分娩、膝手位分娩、Parto cocoras） 演習：フリースタイル出産の介助技術に関するデモンストレーション 5グループに分かれて実技演習 （約1時間30分） |
| 広報 | 大学のホームページへの掲載、施設への広報紙の配布 |

メントすることについて考える教材を得た。主な内容は、「フリースタイル出産とは」から始まり、分娩体位の歴史の変遷やEBMと分娩体位、分娩体位からみる娩出力方向の講義であった。日ごろの業務についてももう一度EBMにそって検討し変えていくこと、助産技術に関しては細かい技術からなれること、例えば産婦が自由に楽な体位を取っていても診察ができるようになることを示された。さらには、産婦のニーズに敏感になることについて講義を受けた。産婦のニーズに関しては、話に十分耳を傾け、バースプランやレビューをとおして、産婦とともに出産を考えることの重要性を再認識する内容であった。さらには、出産のとき「声を出すと力が逃げる」、といわれがちだが、本当に力が出ないのか？という問いには、実際にアスリート達の例から説明を受け、臨床でよく出会う問題として、身近な問題に対してどのように解決していくのかについてのヒントを得ることができた（表1参照）。

（2）演習

後半の演習では、まずは複数の講師によるフリースタイル出産のデモンストレーションを受け、その後5つのグループに分かれ、技術演習をおこなった。各グループ講師の指導の下、実際に分娩介助模型を使用し、児の出生をどのように手助けし、母親の姿勢をどのように安楽に保ちながら分娩介助をおこなっていくのかなどの実技を演習した（写真1、写真2参照）。

Ⅲ. アンケート調査

1. アンケート内容

①フォーラムをどこで知ったか、②フォーラムへの参加動機、③講師に対する興味、④フォーラムの内容、⑤講師への興味、⑥フォーラムの時間配分、⑦フォーラムの感想について調査した。アンケートは、自記式記入用紙とし、回収箱にて回収をおこなった。

2. 調査方法

1) 倫理的配慮

フォーラムの参加者に、アンケート調査をおこなった。調査に関しては、フォーラム開始前に受講に関するアンケート調査を依頼した。依頼は、口頭でおこなった。調査結果に関しては、倫理的配慮として個人は特定されることなく、データとして取り扱うこと、なんら不利益を被ることはないこと、アンケートの記載は強制ではないことを口頭にて説明をおこなった。さらに、結果については今後の検討資料にさせていただくこと、学内外の報告をさせていただくことの説明をおこなった。会場には、メディア取材の依頼もあり、そのことに関する説明と同意、学内者による撮影もおこなうことについての説明と同意を得た。報告書に添付する写真については、口頭にて再度関係者に掲載のお願いと説明をおこない同意を得た。

2) アンケート用紙は、フォーラムのレジユメと一緒に手渡し、無記名自記式法でおこない、回収は、フォーラム内設置の回収ボックスにておこなった。

3. 結果

助産師71名、助産学生13名、合計84名の参加者があった。アンケートの回収は46であり、回収率55%であった。フォーラムは大学からのお知らせや知人助産師からの連絡で41名が知ったと回答し、参加動機は42名が「テーマに関心があった」とし、14名が「講師に関心があった」としている（図1、図2）。フォーラムの講師には45名が「興味を持った」とし、内容は45名が「よかった」と回答していた。フォーラムの時間配分に関しては、27名が「ちょうど良い」、17名が「短い」、2名が「長い」と回答していた。

また、受講後の自由記載感想は、「フォーラムの方法や内容に関する感想」（表3）と「フォーラムの再帰性に関する感想」（表4）に分類できた。「フォーラムの方法や内容に関する感想」では、テーマ、講師、方法、実技、ビデオ、苦情の項目に分けられた。中でも、実技に関する項目の記載が多くを占めた。講師に手を添えていただきながら教わったこと、演習があってわかりやすかったことなどが示されていた。「フォーラムの再帰性に関

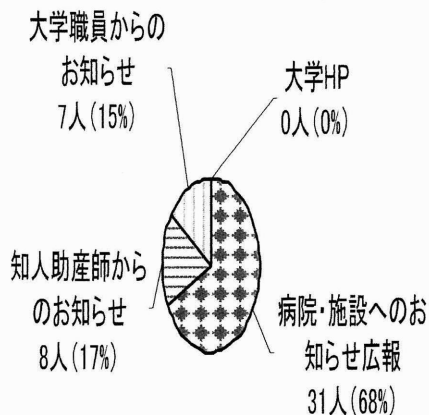


図1 フォーラムをどこで知ったか (n=46)

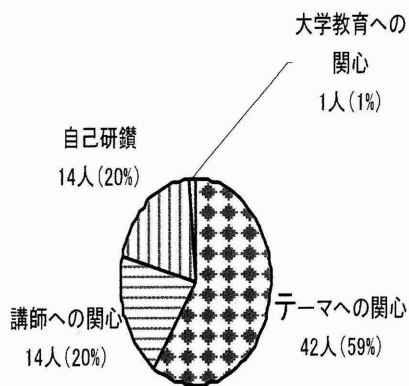


図2 フォーラムへの参加動機(理由) (複数回答 n=71)



写真1 演習風景1

(許可を得て掲載しているものである)



写真2 演習風景2

(許可を得て掲載しているものである)
(2007. 3. 22 朝日新聞朝刊掲載)

表2) フォーラムの方法や内容に関する感想

| 項目 | 感想 |
|-----------|---|
| テーマ | 助産業務の大切な場面、経験の有無にかかわらず常に関心の高い内容である 雑誌などでしかフリースタイルを学ぶことができなかったので実際に実施することができて良かった 現代に注目を浴びる内容である |
| 講師 | 学生時代から尊敬していた中根先生に教えて頂きとても嬉しかった 以前、中根先生が出演されているビデオを見たときから大ファンで、直接お話を聞いて嬉しかった 久々に中根先生の話を聞いて元気になった とても身近に感じられた |
| 方法 | 参加型のフォーラムですごく勉強になった 参加型で良かった |
| フォーラム内容方法 | 詳しく手取り足取り教えて頂きよかった 手を添えながら実技を教えて頂いたこと 分娩介助模型による練習がとてもわかりやすかった 分娩介助模型による練習がよかった 演習があつてわかりやすかった 実践的でとても学びが多く有意義な研修だった |
| 実技 | 実技ができたこと 演習に時間がとれていた 全員でできるくらいの時間があれば良かった 演習時間がゆっくりもてた 実技も手技を見て頂きながら指導して頂いてとても勉強になった 見ていたら簡単そうだけど、実際やってみるとトレーニングを積まないといけないことがわかった 四つんばい介助 |
| ビデオ | 出産シーンのビデオが印象的 ビデオを通して分娩が自然なものであることがわかった |
| 書籍 | 資料のコピーで写真が見にくかった |

する感想」では、現在自分の置かれている状況にどう活かしていくのかという「現場(自己)へ活かす」項目と、現状を振り返りどう考えていくのかという「現場(自分)再考」項目に分類できた。今後職場で生かしていくことへの参考や学びをどのように深めていくのかという具体が示される内容が多かった。自分への再考では、出産の主役の再確認や対象との関係性の見直しなどの内容が示されていた。

表3) フォーラムの再帰性に関する感想

| | | |
|-----------|----------|---|
| フォーラムの再帰性 | 現場自分へ活かす | うちの病院でも和室分娩やフリースタイル取り入れたいので参考になった 実践ですぐ活かせるものだった 実践に取り入れていきたい内容であった 是なら自分のできる範囲で始めてみようと思った お母さん、赤ちゃんそしてご家族がお産楽しかったと思ってもらえるようなケアをしたい 「常に原点に戻ることを再度感じた。自然に逆らわないことの大切さを痛感する かなり参考になりました。どんな姿勢でも対応できるように胸を磨きたい アクティブバースを病院のスタッフと共有し、今後アクティブバースをしていきたい これからアクティブバースを行うものとして考えるところがあった。今後に活かしたい ハイリスクも多い病院なのにフリースタイルをされて、私たちもできると思いました。まずは今日の資料をみんなで読んで勉強会から始めます 学生の頃学んだことを思い出した。今日の学びを大学病院でも取り入れることができるよう少しずつでもしていきたい フリースタイルの助産技術は難しいけど学んでいきたい |
| | 現場自分再考 | 医師との関係で行えないのですが、分娩に至るまでの経過もとても大事だと再認識した いきみの方法、今まで大きな息を吸って息んでらっていたので衝撃的だった 会陰保護をしっかりともしっかり分岐助産ができる。今まで色々手を加えていたと思った なかなか施設ではできないこともありますが今日の研修で学んだことを活かしていきたい 病院で忘れていたものを思い出させて頂きました 診療所でも病院でもフリースタイル出産が広がれば、産婦さんたちにとってどんなにかいいでしょう 出産の主体は「母と子」であるということを大切にしていきたい 出産の主体性をさらに確信しました ごく自然に関わればよいと思った フリースタイルを取り入れることで産婦さんと近づける気がした 産婦をコーチングしない 熱い助産師たちが一杯いること 産婦さんが自力でお産できるようにフォローするのが助産師の役割というのが耳に残りました お節介りになりすぎないこと 先生が介助は簡単と言われていたこと 何も手をかけなくても安全に生まれるという点 |

4. 考察

今回、参加者の約60%がテーマに関心を示し、ほぼ全員が講師に興味を持っていた。このことから、フォーラムへの参加者が予想以上に多く、テーマの関心度は高かったことが伺え、参加助産師の興味関心は満たされていたと考える。参加者の自由記載の感想内容から、演習効果が高かったフォーラムであったということがわかる。「フォーラムの方法や内容に関する感想」では、実技に関する感想が多く、模型を使用し実践的な演習がおこなえたことで学びに繋がったことが考えられる。実習室を利用し、教材を使用し、実際に援助技術について臨床助産師たちと会話をしながら技術の向上が目指せることは大きな意味があると考え。地域や臨床の助産師たちに実際に大学での学習教材を示す機会は少ないが、教材を示すことで学習内容の予測は付き、イメージできるのではなかるうか。

「フォーラムの再帰性に関する感想」では、フォーラムの受講内容を臨床現場や自分自身へ活かすことの内容と現場や自分の再考する内容があげられた。現場や自分に生かそうとする内容は、スタッフとの共有や実践への導入を視野に入れ、今後の実践変革へとつながるものと

してとらえられた。現場や自分の再考では、業務の振り回りと再認識への刺激となっていたことが伺える。社会情勢から見て分娩取扱いを休止している病院が増える中、新たな助産師の活動方法を模索する契機にもなっていると考える。

県内ではまだまだ供給の少ないフリースタイル出産についてのフォーラムをおこなったことは、受講者の感想から、目標は達成できたと考える。助産師の中には、フリースタイルに関する助産技術を提供したいと考えている声をよく耳にするが、実践には移せていない現実がある。しかし、どの助産師も、どうあれば産みの女性たちとうまく寄り添い、安全安楽で満足度の高い出産体験となるのであろうかと考え続けている結果ではなかるうか。最近、バースプランの立案やその評価であるバースレビューの重要性がいわれている。女性とともに、そのときをどう過ごしていくのか、女性が自ら選択したフリースタイル出産への助産技術の提供への需要も高まっていくであろう。

日本のお産が揺れ動き、医療や出産に対する考え方が変わりつつある中、助産師も「女性にとって何が一番いいのか」と捜し求めていると考える。女性にとってより良いケアのあり方を様々な助産師がセッションし合い、その姿を学生が見聞きすることは大きな刺激となろう。日頃多忙な中業務をこなしている助産師にとっても、実技演習をとおして「見ていたら簡単そうだったけれど、実際やってみるとトレーニングを積まないといけないことがわかった」、さらには、「実践的で学びが大きいフォーラムだった」の表現から助産師としての意識の啓発などが深まったのではなかるうか。「参加型のフォーラムがよかった」、「実践者を身近に感じられた」、「臨床の実践に取り入れていくことを考えたい内容であった」など、自らが技術演習をおこない、そのうえ実践者を目前に身近なところでアドバイスを受けながら研修が進んだこと、さらには、今後の業務改善へと進んだフォーラムであったことが理解できる。ひとつのテーマから、技術演習の中で現状を省み、助産師同士お互いを刺激することの意義は大きく、フォーラムの再帰性が評価できるといえよう。

IV. 結 語

当初、50名の参加を予定していたところ、90名近くの申し込みがあった。直に、実践者としての手本を見ることで助産に関する知識・技術の伝達及び共有をすることから、今後の臨床活動へ活かすことや自分自身の再考になったと考える。これから卒業をし、社会で助産師として羽ばたこうとしている学生にとっては、教育の現場と地域や臨床で活動する助産師との連携をしていくことは、

今後の関係性のあり方に大きく影響するのではなかろうか。それぞれの立場で助産師を取り巻く課題に対して、交流を深めながらともに協働していくことで、助産の質の向上につながることを実感した。今後も地域と交流しながら、教育に反映できる方法の一つとして、大学の魅力を伝えながら、質向上をめざし継続していく予定である。

文 献

1. 中根直子：これからの出産準備教室，ペリネイタルケア，夏季増刊号，メディカル出版，2005.
2. 中根直子：産婦に優しい分娩体位① テクニックの解説とテクニックを離れて思うこと，助産雑誌vol. 60, no. 1, 20-29, 医学書院，2006.
3. 中根直子：Perinatal Care Note 分娩介助 周産期手帳②，メディカ出版，2007.

As Hold the 1st Midwifery Forum –With Free-Style Birth as the Theme–

Yoko Furukawa¹⁾, Kyoko Shimazawa¹⁾, Sumika Iwatani¹⁾
Satoi Takahashi²⁾, Kiyoko Masaki³⁾, Nao Yamada³⁾

¹⁾ School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

²⁾ Hakuho Women's College

³⁾ Former School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

Key Words Midwifery, Free-style, Childbirth, Forum, Technical practice